

Invisible Boundary

絵金は、いま何を語りうるのか

地球規模の環境課題を考えるときに重要なのは、数値や科学的知見だけではなく、人びとが世界をどのように感じ、語り、恐れ、祝福してきたのか——その文化的・感情的な営みを読み解くことも不可欠です。総合地球環境学研究所(地球研)は、こうした視点から自然科学と人文・社会科学、そして芸術や社会実践をつなぐ学際的な取り組みを進めています。その根底には「境界＝マージナルな領域こそが、新たな思考と対話の源泉である」という考えがあります。

本展では、曖昧でとらえがたい「境界」に焦点を当て、「恐怖」という感情を手がかりに、人間と自然、自己と他者、可視と不可視の関係を見直すことを試みます。江戸末期の絵師・弘瀬金蔵(絵金)が描いた芝居絵屏風には、怪談や仇討ちの場面を通じて人間の欲望や恐怖が戯画化され、祭礼の夜に人々を魅了してきました。恐怖のイメージは、異なる存在とのあいだに境界線を引くと同時に、その存在を想像し続ける装置として機能してきたのです。

こうした伝統を踏まえ、苅谷昌江は小泉八雲や『狂歌百物語』に連なる妖怪の想像力を描き、吉岡一洋はギュンター・グラスの思想を視覚化しつつ、土佐の祭礼文化における絵金の情景を提示します。そして澤崎賢一は、恐怖や畏怖、魅惑といった相反する感情が交錯する「境界線そのもの」を映像で探ります。

恐怖は普遍的でありながら、文化や経験、文脈によって異なる意味を持つ感情です。その多義性が生むズレや共鳴を通して、私たちが生きる社会の単一的な価値観を問い直し、理性と感情、可視と不可視のあいだに潜む新たな関係性を照らし出します。本展を通じて、あなた自身の感覚や記憶の中にある「境界」と向き合い、まだ言葉にならない新しい関係性を探ってみませんか。

映像展示

対談 物語を織りなすもの

「見えん さかい目」の文脈から、「物語ること」「見せること」「伝えること」の交差点を探ります。「恐怖」や「境界」をどう立ち上げ、共有可能な経験として提示できるのかを対談いたしました。

- 泉並敬真 × 苅谷昌江 × 福島尚子

アーティストトーク

妖怪の想像力の現代的位相

妖怪・怪異という不可視の存在を、美術作品として見える形にするとき、何が失われ、何が強調されるかを問います。

日時：2025年10月25日(土) 11時-12時

- 中谷有里 × 苅谷昌江

創造の対話 - 芸術実践の必要性を問う

本展のコンセプトについて企画者の想いを語り、大学教育における芸術文化や芸術実践の必要性について考え、グラフィックと映像という表現アプローチの共通点と差異を語ります。

日時：2025年11月1日(土) 15時-16時

- 吉岡一洋 × 澤崎賢一

企画 / 出品作家

澤崎 賢一 SAWAZAKI Kenichi

アーティスト / 映像作家 / 総合地球環境学研究所 特任助教

1978年生まれ。京都市立芸術大学大学院博士後期課程修了、博士(美術)。映像を基盤に異分野・異文化との共同を展開し、「暮らしのモニタージュ」「ヤングムスリムの窓」「センサリー/イマジナリー・ダイアログ」など学際的プロジェクトを主宰。主な作品に、展覧会「語りかける庭」(2025)、展覧会「すべてのものとダンスを踊って」(金沢21世紀美術館、2024-25)、映画『#まなざしのかたち』(2021)、劇場公開映画『動いている庭』(2016)など。textsite.net

吉岡 一洋 YOSHIOKA Kazuhiro

高知大学 教授 / グラフィックデザイナー / 版画家

1974年生まれ。大阪芸術大学卒業、鳴門教育大学大学院修了、徳島大学大学院博士課程修了、博士(学術)。主な受賞歴は、二科展デザイン部特選、日本版画会奨励助賞、カダケス国際版画展入選(スペイン)。作品制作のほか、地域の芸術文化に関して比較文化研究を行う。本展・研究の一部は、令和6年~令和8年度日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(C))「土佐の祭礼文化における絵金の役割—映像の可能性について—」の交付を受けて行われた(研究課題 24K03532)。

苅谷 昌江 KARIYA Masae

アーティスト

1980年高知県生まれ。大阪芸術大学美術学科卒業、京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻油画修了。絵画・映像・インスタレーションを通じて、「野蚕」「トータム」「マスク」「ヴンダーカンマー」を軸に人と自然の関係を再考する作品を展開。国内外で個展・グループ展に参加し、NHK連続テレビ小説「まんぶく」「スカレット」「げげげ」では絵画指導も担当。

GUEST 福島尚子(高知県立美術館企画事業課チーフ)、泉並敬真(NHK連続テレビ小説『げげげ』ディレクター)、中谷有里(高知県立美術館 主任学芸員)

HIMOTOKUSABI
ART STUDIO



©MIEN.SAKAIME



〒780-0823 高知県高知市菜園場町 5-13